

知っていますか？

「本屋大賞」



今年の本屋大賞の発表は4月12日です。

最近ではテレビでもよく耳にする本屋大賞。一体どのようなものか知っていますか？

大きな特徴は、「書店員からの投票」のみで決まることです。

プロの選考委員が決めるのではなく、一般の書店員さんたちが、過去一年に読んで面白かった本、お客様に薦めたい本、売りたい本に投票して決定します。

図書館でも、本屋大賞の受賞作・ノミネート作は大人気！

まだまだ予約がいっぱいの本も多いですが、少し前の受賞作を探してみると、意外とすぐに借りられるものもあります。

次に読む本に迷ったら、本屋さんイチオシの本を選んでみるのはいかがでしょうか？

～過去5年間の本屋大賞受賞作品～

2022年

『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬／著

2021年

『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ／著

2020年

『流浪の月』 凧良ゆう／著

2019年

『そして、バトンが渡された』 瀬尾まいこ／著

2018年

『かがみの孤城』 辻村深月／著



Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.51 2023.4

清瀬市立図書館

指と耳で見る、目と手で聞く

金治 直美／著
ペリかん社



世の中が目まぐるしい急激な変化をする今日、視覚障害や聴覚障害の人たちはどのような困難を抱えているのでしょうか。自立した生活ができるよう専門の学校や施設では、どのような支援や教育を受けているのでしょうか。

目が見えない、耳が聴こえないためにできないこともあるかと思えます。しかし、「指と耳で見る、目と手で聞く」ことができる等、障害のある人の世界と文化は多くの出会いと発見に満ちています。

事故や病気等により、誰もがいつどうなるか、わからないからこそ、深く豊かな世界を少し感じてみませんか。きっと、そこには自分の知らない新しい世界が広がっていることでしょう。

〈駅前図書館 岩田〉

博物館できつと一度は見たことのある、恐竜の骨格標本。部屋に飾ってあったら、ちょっとカッコいい！？

この本では、フライドチキンの骨を材料に、本格的な骨格標本を作る方法が解説されています。薬品や刃物を使ったり、繊細な組み立てが必要だったりとしんどい部分もありますが、丁寧に仕上げれば、表紙の写真のようなカッコいい標本が出来上がります。

工作の手順だけでなく、本の前半では動物の骨とは何なのか、また、鳥類と恐竜の関係性、ニワトリの骨の構造などについても、しっかり学ぶことができます。プラスアルファ情報として、動物の骨に関するコラムももりばめられており、動物好きの皆さんにもおすすめです。

自分だけの骨格標本づくり、挑戦してみませんか？ 〈中央図書館 小野〉

作ろう！フライドチキンの骨格標本

志賀 健司／著
緑書房



SDGsとトイレ

日本トイレ協会／編
柏書房



SDGsには17の目標があり、その目標の中の1つに「安全な水とトイレを世界中に」という目標があります。

普段の暮らしからは、想像することが難しいかもしれませんが、世界には20億以上の方が衛生的なトイレを使えず、5億以上の方が野外に排泄をしています。また、安全な水と衛生的なトイレが使える日本も、1人あたり年間10kgのCO2が水洗トイレから排出されており、地球温暖化に加担しています。トイレは生活用水の2割を占めており、一人あたり1日約45リットルの水を使っているとも書かれています。これは、深刻な水不足が懸念される日本において、見過ごせない問題です。

この本は、日本と世界の現状の問題について、また、これからのトイレ、そして、世界の進むべき未来について考えさせられる一冊です。 〈中央図書館 根岸〉

バンピー

いとう みく／著
静山社



母を3年前に病で亡くし、父は5ヵ月前から行方不明に。毎月1本の電話と生活費を送ってくるだけの父に憤りながらも「この家を守るのはオレしかない」と、小学生の妹3人の面倒をみながら家事をこなし、学校に通っている高2の男子、成のこぼこ家族の物語。

ある日、妹が万引きしたと近所のスーパーから電話が入ります。行ってみると、そこにいたのは母違いの妹だと名乗る女子高生の蛍。そのまま同居することになり、心配した叔母の小春までもが飼い猫と一緒に暮らすことに。

蛍の母は誰なのか？ 成の父はなぜ家を出て行ったのか。

親に振り回されながらも、前に進もうと今を懸命に生きる子どもたちの心の叫びが聞こえてきます。

〈元町こども図書館 堀田〉